



受賞者氏名	廣岡裕吏・石川成寿	 
所属	生命科学部応用植物科学科	
受賞年月日	2022年8月28日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本菌学会	
受賞名	平塚賞	

エゴノキ科エゴノキ属のハクウンボク (*Styrax obassia* Siebold et Zucc.) は、街路樹としても植栽される落葉高木の一種です。2010年以降、関東の複数地域で越冬したハクウンボクの葉および葉柄に、菌類の一種であるグノモニア様菌類の子嚢殻が多数観察されました。これまでの先行研究において、ハクウンボクからグノモニア様菌類が確認されたという報告は国内外において見当たらなかったため、最新の分類体系に基づいて、本菌の顕微鏡を用いた詳細な形態と培地における培養性状の観察、さらに LSU、rpb2、tef-1  $\alpha$  の3つの遺伝子領域を用いた分子系統解析を行いました。その結果、本菌はグノモニア科の新属新種であることがわかり、*Tenuignomonium styracis* Minosh., D.M. Walker & Hirooka と命名しました。グノモニア科に属する菌類はディアポルテ目に含まれ、草本や木本類の内生菌または腐生菌として知られていますが、時に重要な植物病原菌としても記録されています。今回、*T. styracis* が採集されたサンプルは、全て秋に落葉後、越冬したハクウンボクの葉上から観察されました。そこで、この菌類の生態的な特徴を明らかにするため、健全なハクウンボク葉への接種試験を行ったところ、約1週間後に葉や葉柄に小さな壊死斑が現れ、その壊死斑のある葉は対照区と比べて早く落葉しました。以上の結果から、*T. styracis* はハクウンボクに対して、弱い病原性を持つこと、また秋のハクウンボクの落葉を早める可能性が示唆されました。

受賞(研究)内容詳細



図 a: 落葉前のハクウンボクの葉、b: 落葉後のハクウンボクの葉、c: 葉柄上に形成された *Tenuignomonium styracis* の孔口部、d: *T. styracis* の子嚢殻、e: *T. styracis* の子嚢胞子